

17年度には、所蔵の特徴的資料を紹介する『としょかん玉手箱』内に、愛知県内で発行されていた明治・大正・戦前期の新聞のマイクロフィルムを紹介する「あいちの新聞」、当館が所蔵する明治期教科書コレクションを紹介する「明治期の教科書」を追加した。他に、事業年報、来館者アンケート調査結果などを新コンテンツとして追加した。また18年3月の多文化サービスコーナー開設に合わせ、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語の利用案内を掲載した。

ホームページのアクセス数は順調に伸びており、前年度比にしてトップページは106%、蔵書検索ページは115%の伸びを示している。

平成15年1月に開始した横断検索は、平成17年度末で参加自治体数が40に増加し、県内図書館の蔵書の87%が検索対象となった。平成17年2月に公募で決定した愛称「愛蔵くん」も定着し、1日あたりのアクセス件数も約612回となり前年度より増加している。

7 図書館のイベント

(1) 児童図書室の取組み(お話し会、ブックトーク)

平成17年度は年4回のおはなし会を行った。1回目は4月23日(土)に子ども読書の日を記念して開催した。万博開催に協賛する意味もあり、モリゾー・キッコロの着ぐるみを借り受け、おはなし会に参加してもらった。この日はお天気にも恵まれ、モリゾー・キッコロ人気もあり、60名の参加があり盛況であった。夏休み中に2回、クリスマスに1回それぞれ行った。

名古屋市立笹島中学校の要請により、同校で11月にブックトークを行った。初めての試みであり、不安もあったが、テーマを「約束」として約40分間で実施した。同内容で12月3日(土)にブックトークの集いを一般利用者を対象に館内(中会議室)で実施した。また、館内レファレンス研修でもブックトークの講座を設け、実際にブックトークを行うなどした。

(2) 図書館探検ツアー

当館のバックステージを案内する「図書館探検ツアー」を、平成17年8月25日(木)に小学生を、翌26日(金)に中高生を、秋の企画展示(10月19日~12月18日)の開催にあわせ、11月12日(土)に18歳以上の方を対象に実施した。バックステージを紹介することで、図書館に親しんでもらい、図書館の上手な使い方を知ってもらうことが目的である。ツアー当日は、いずれの回も、AVホールで図書館を紹介したビデオを観覧してもらい、その後、順次各階を案内した。参加者は、小学生・中高生は合計41名(その他付き添いの父兄等多数)18歳以上は11名であった。なお、9月には台風11号が東海地方に接近したため参加を見合わせた小学生のために、2回、追加ツアーを実施した。



(3) ゴッホ：読む・見る・知る500冊

平成17年7月26日(火)から9月25日(日)まで、愛知県美術館において、2005年日本国際博覧会記念行事の一環として「ゴッホ展」が開催された。それにあわせ、当館においても、7月20日(水)から9月18日(日)の間、「ゴッホ：読む・見る・知る500冊」と題してゴッホの画集や研究書、ゴッホに関連する話題を取り上げた本を、様々な切り口に分類し、1階ロビーにて展示・貸出を行った。また、期間中には、愛知県美術館の「ゴッホ展」担当学芸員による講演会(7月30日(土)、演題「ゴッホの旅路」)と、ゴッホに関するドキュメンタリー映

画（「ゴッホ：心の旅」バイエルン放送作成）上映会を実施（9月11日（日））した。

（４）こんな本があるよ！2005

秋の読書週間（10月27日（水）から11月9日（日））にあわせて、平成17年10月19日（水）から12月18日（日）の間、「こんな本があるよ！2005」と題して当館職員が蔵書の中から是非とも利用者の方々に読んで貰いたい本にコメントを付し1階ロビーにて展示・貸出を行うと共に、県民の方からも同様にオススメ本とコメントを募り、展示・貸出を実施した。当館職員からは176件、県民の方からは19件、オススメの本とコメントの提出があった。また、この企画にあわせ、18歳以上の方を対象に「図書館探検ツアー」（11月12日（土） 前述）と、10代以上を対象に「約束」をキーワードに「ブックトーク」（12月3日（土） 前述）を実施した。

（５）文明開化と教科書：明治の教科書その二

平成18年1月18日（水）から2月26日（日）の間、2階ロビーにおいて、「文明開化と教科書：明治の教科書その二」を開催した。この企画展示は、平成14年1月から2月にかけて実施した「明治の教科書：寺子屋から小学校へ」に続く企画展示事業で、当館所蔵の明治期教科書コレクションのうちから、明治初期「文明開化」を押し進めた人物や、近代教育制度確立に資した施設などに関連したもの、また諸外国の事情を紹介した教科書を展示した。

（６）郷土資料常設展

平成17年3月19日（土）～9月18日（日）まで、「愛知の博覧会」と題して、明治から昭和初期にかけ県内で開催された主な博覧会の博覧会案内図や公式記録など関連資料17点を展示した。2005年日本国際博覧会（愛・地球博）の開催にあわせた企画であった。

続いて、昭和初期以前の古い絵はがきを中心とする展示を2回連続して行った。1回目は平成17年9月21日（水）～平成18年1月15日（日）「絵はがきにみる あいち 海辺の風景」と題し、蒲郡、御津、半田など、県内の海辺の風景を収めた絵はがき49枚を展示した。2回目は平成18年1月18日（水）～平成18年5月14日（日）「絵はがきにみる あいちの寺と神社」と題し、県内の寺院や神社を収めた絵はがき51枚を、“寺 - そのゆかりの人々 - ”、“神社 - 春を迎える”の二つのテーマに分け展示した。絵はがきの展示は初めての試みであったが、寄せられたアンケートの回答からは昔の風景に対する関心の高さをうかがうことができた。

（７）その他の資料展示

前述のほか、各階、各コーナーで小規模の展示を行った。4階では、水俣病発現50年目に際し、当館所蔵の水俣病関連図書100冊を紹介する「資料展示『水俣病』を知る本100冊」、ビジネス情報コーナーにある職業や資格取得、就職関連図書300冊を紹介する「職業・資格の本300冊」、さまざまな経営者が語る経営論・自伝など約100冊を集めた「社長に学べ！」を、3階ティーンズコーナーでは、愛・地球博にちなみ自然に関係した資料を紹介する「自然とわたし」、中学、高校生を対象とした、伝記・ルポルタージュを紹介する「夏によもう！この人の生き方」、部活動や友だちをテーマにした本を紹介する「～春 出会いきらめき～部活 友だち」を行った。展示の日程等は13p実施事業一覧を参照されたい。



8 職員研修

（１）館内研修

新任職員研修（新任、転任職員対象）を４月６日（水）～８日（金）にかけて行った。内容は、「愛知県図書館について」、「接遇及び個人情報保護について」、「資料検索と簡単な案内」であった。

毎月の定例休館日を利用し、レファレンス研修を行った。講師はサービス課の職員が務めた。テーマは「図書の所蔵についてのレファレンス」（５月、６月）、「レファレンスデータベースの入力と使い方」（５月）、「新聞・官報等のレファレンス」（６月、７月）、「法令のレファレンス」（７月、９月）、「AV はじめの一步」（９月、１０月）、「児童のレファレンス」（１０月、１１月）、「地域 知っておいてほしいこと」（１１月、１２月）、「視覚障害者サービス」（１２月、１月）、「ブックトーク」（１月、２月）、「地図、地名に関するレファレンス」（３月）。

（２）市町村図書館業務体験研修及び研修会等への派遣

平成 17 年度は春日井市立図書館へ 1 名を派遣した。

平成 17 年度は、文部科学省、国立教育政策研究所が主催する図書館司書専門講座（10 日間）を始めとした研修等に職員を派遣した。

9 県内公共図書館の動向

（１）新館開館

平成 17 年 5 月 6 日に名古屋市山田図書館が開館した。名古屋市の支所図書館として西図書館の分館と位置付けられ、名古屋市の 20 館目の図書館である。

（２）市町村合併に伴う公立図書館の動向

市町村合併により、愛知県内の市町村数は 88 から 63 になった（平成 18 年 4 月 1 日現在）。これに伴って、図書館設置市町村は 51 となり、図書館設置率は 81% になった。市で唯一図書館未設置となった清須市では、新市の発足にあわせ図書館建設の検討を開始した。図書館設置市町村同士の合併により、図書館の統合に伴う分館化も進んだ。市町村合併に伴う市町村図書館の動向を一覧にしたものが次表である。

合併年月日	新市町村名	合併した市町村	新図書館名(館名未変更を含む)
15 年 8 月 20 日 17 年 10 月 1 日	田原市	田原町、赤羽根町、渥美町	田原市中央図書館、赤羽根図書館、渥美図書館
17 年 4 月 1 日	一宮市	一宮市、尾西市、木曽川町	一宮市立豊島図書館、尾西図書館、玉堂記念木曽川図書館、尾西児童図書館
17 年 4 月 1 日	豊田市	豊田市、藤岡町、小原村、足助町、下山村、旭町、稲武町	豊田市中央図書館
17 年 4 月 1 日	稲沢市	稲沢市、祖父江町、平和町	稲沢市立稲沢図書館、祖父江の森図書館、平和町図書館
17 年 4 月 1 日	愛西市	佐屋町、立田村、八開村、佐織町	愛西市中央図書館、立田図書館、佐織図書館
17 年 7 月 7 日	清須市	清洲町、西枇杷島町、新川町	
17 年 10 月 1 日	新城市	新城市、鳳来町、作手村	新城図書館
17 年 10 月 1 日	設楽町	設楽町、津具村	
17 年 11 月 27 日	豊根村	豊根村、富山村	
18 年 1 月 1 日	岡崎市	岡崎市、額田町	岡崎市立中央図書館、額田図書館
18 年 2 月 1 日	豊川市	豊川市、一宮町	豊川市中央図書館
18 年 3 月 20 日	北名古屋市	師勝町、西春町	北名古屋市東図書館、西図書館
18 年 4 月 1 日	弥富市	弥富町、十四山村	弥富市立図書館

（３）指定管理者制度の導入

平成 15 年 9 月 2 日に施行された「地方自治法の一部を改正する法律」により、それまでの管理委託制度が廃止され、指定管理者が管理を代行する指定管理者制度が創設された。県内でも指定管理者制度の導入の検討が進められ、平成 18 年 9 月 1 日の移行期限に備え、新城図書館は、これまで管理委託を行っていた新城総合サービスセンターを指定管理者に指定を行った。また、幸田町立図書館も、これまで委託していた幸田町文化振興協会を指定し

た。両館とも平成 18 年 4 月から指定管理者による運営となる。

(4) 大学図書館との連携・協力

東海 4 県（愛知、岐阜、三重、静岡）の公立図書館と同県に所在する大学図書館による連携・協力のための東海地区図書館協議会では、相互利用（貸借・複写）や研修会の公開、分担保存等の検討を進め、平成 17 年 5 月 11 日に「東海地区図書館協議会資料相互利用に関する協定」を締結した。

この協定の締結にあわせ、各県の市町村図書館や大学図書館に参加を呼びかけた結果、公立図書館では、愛知県 48 館、岐阜県 1 館、三重県 5 館、静岡県 1 館の 55 館、大学図書館は、愛知県 15 館、岐阜県 1 館、三重県 2 館、静岡県 1 館の 19 館で、合計 74 館が参加した。

また、市町村図書館と大学図書館とが個別に連携・協力を図る動きが続いている。平成 18 年 3 月から、豊田市中心図書館は豊田市内にキャンパスを置く 4 大学（日本赤十字豊田看護大、中京大、愛知工業大、愛知学泉大）と協力して相互貸借を始めた。こうした連携は、瀬戸市、春日井市などでも行われている。

10 県図書館団体の動向

(1) 愛知県公立図書館長協議会

愛知県公立図書館長協議会では、同協議会主催の研修会参加資格について協議した。図書館の委託化が進むなか、委託職員の研修受講の是非について指針を求められたためである。平成 16 年度中に同協議会研修委員会で検討され、「当面、講演形式で開催する公立図書館長協議会の研修については、各加盟館長の判断により参加を認める」との結論を得、平成 17 年 4 月 27 日に開催した第 1 回定例会で報告された。

平成 17 年度に実施した研修は、以下のとおりである。場所は、全て愛知県図書館大会議室で行われた。

開催日	テーマ	講師
17 年 6 月 3 日(金)	冬の時代なんて言わせない - もっとみんなの役に立つ図書館に	齋藤 明彦 (鳥取県自治研修所長, 前鳥取県立図書館長)
17 年 7 月 15 日(金)	図書館と指定管理者制度	中川 幾郎(帝塚山大学教授)
17 年 12 月 16 日(金)	レファレンス技術とインタビュー (愛知図書館協会との共催)	斎藤 文男(富士大学教授)
18 年 2 月 3 日(金)	図書館における映像資料の著作権	岡田 奈奈美(日本図書館協会)

(2) 愛知図書館協会

愛知図書館協会でも、委託職員の研修受講についての協議が行われた。平成 17 年 5 月 12 日に開催された理事会で、「所属する図書館の館長が責任をもって推薦するのであれば、図書館の現場で実務に携わる委託業者社員等も除外せず申込みできるようにするのが妥当であろう」という意見で一致した。この意見は 5 月 19 日開催の総会で諮られ承認された。

研修会は、これまでの資料保存研修に換えて、開催の要望の多かった著作権研修を実施した。また、IT 研修は、レベルを上げこれまでの受講者のスキルアップ研修とした。他の 2 研修については、毎年希望者が多いため継続して行うこととなった。

開催日	テーマ	会場
17 年 7 月 13 日(水)、9 月 16 日(金)、29 日(木)、10 月 14 日(金)	児童サービス研修	愛知県図書館
17 年 11 月 4 日(金)、18 日(金)、12 月 1 日(木)、16 日(金)	レファレンス研修	愛知県図書館
18 年 1 月 26 日(木)～27 日(金)	著作権研修	愛知県図書館
18 年 3 月 16 日(木)～17 日(金)	IT 研修	愛知淑徳大学